

厚単板 複合フローリング（床暖房兼用）の施工方法

このたびは、弊社フローリングのご採用をいただき大変ありがとうございます。施工に関するポイントや注意事項をまとめております。表面が2mm厚の天然木の為、商品の特性をご理解いただき、美しく仕上げていただくために、必ず施工前に確認くださいませよう、お願い致します。

施工前の準備

- ①この商品は内装用の床材です。屋内でも浴室など湿気が多く、たえず水分がかかったりする場所では、ご使用できません。
- ②保管する場所は湿気の多い場所を避け、極力直射日光が当たらないようにし、立てかけ状態をせず、水平に置いてください。
- ③下地が濡れていたり、湿気が上がってくる状況ですと施工後、フローリング表面にカビの発生、変色、突き上げ、床鳴り等が発生することがありますのでご注意ください。
- ④床暖房に施工の際は、床暖房機器メーカーの施工説明書をご確認の上、注意事項を守って施工してください。

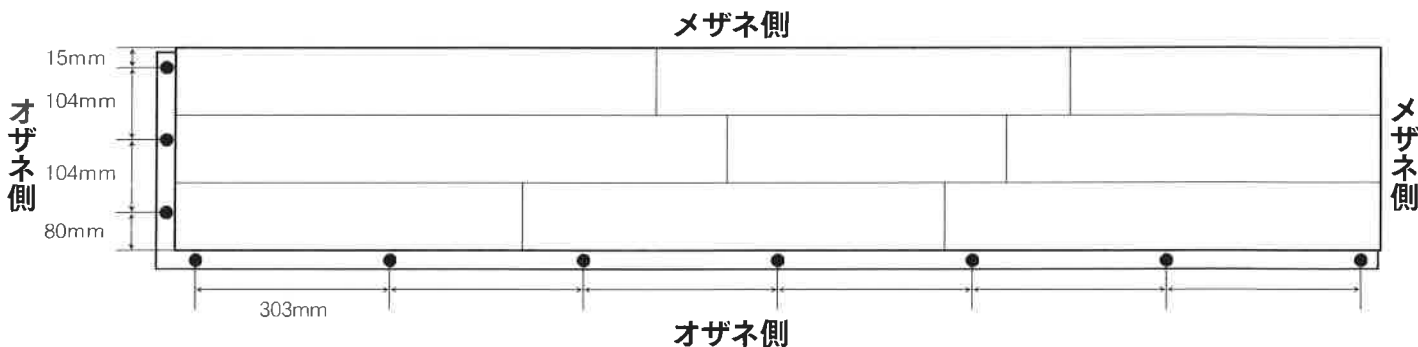
施工の方法

- ①施工の前に仮並べを行い、全体の色柄バランスを確認してください。天然木を使用している為1枚1枚の色や杢目が異なります。
- ②下地は捨て張り合板（12mm厚以上）を使用し、フローリング接続箇所と下地の接続箇所は100mm以上離れるよう割り付けてください。
- ③一液ウレタン樹脂系接着剤を必ずご使用ください。（コニシ株式会社のKU928C-Xを推奨しております）接着剤は下地に303mmピッチに塗布してください。フローリング短辺部の接続箇所は両方のフローリングの下に接着剤が入るようにしてください。
- ④フロア用スクリーネイルかステーブル釘（38mm以上）をご使用ください。45°の角度でオス実上面に打ち込んでください。
- ⑤部屋の端部においては、フローリング長辺側の巾木や被せ見切りの下などに、必ず隙間（2～3mm）を設けてください。

床暖房用として施工する場合

- ①床暖房放熱体の小根太部分に、接着材と釘で確実に固定してください。小根太の釘打ち可能部分以外には、絶対に釘を打たないでください。
- ②小根太部分にフローリング短辺の継ぎ目がくるよう割り付けてください。
- ③床暖房機器の通湯、通電の試運転をして、検査が完了してから施工してください。施工後は接着剤が硬化する期間を十分に取ってから、床暖房の運転をしてください。

釘打ちの固定場所



施工後の注意

- ①施工後は直射日光を避け、フロア表面のゴミを清掃後、養生シートを全体に被せ、養生テープ（弱粘タイプ）で固定して、その上に養生板を敷いてください。養生シートが被っていない部分があると、直射日光により変色する場合があります。
- ②お引き渡しまでの間は換気をして、湿気が部屋にこもらないようにしてください。

メンテナンスについて

- ①ワックスフリーになっておりますので、基本的にワックス掛けの必要はありませんが、細かい傷の保護をするために、フローリング用樹脂ワックスをご使用いただくことも可能です。
- ②日頃のお手入れはゴミやホコリを取り除き、乾いた布やモップで拭いてください。化学雑巾は床表面が白っぽくなる場合がありますので使用しないでください。ひどい汚れには固く絞った布か、床用洗剤や中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭きとってください。拭き取った後は洗剤分が床に残らないように拭きとってください。
- ③ワックスは推奨のつや消しタイプをご使用ください。天気の良い日を選び、フローリング表面のゴミ、ホコリ、汚れを固く絞った布で拭きとり、最後に乾拭きして完全に乾かしてください。ワックスをきれいな布に含ませムラなくできるだけ薄く伸ばして塗布してください。

推奨ワックス

株式会社リンレイ

ハイテクフローリングコート つや消し 20